

HKFA2025プロジェクト

HKFA2025プロジェクト事業本部の創設

公益財団法人 北海道サッカー協会(HKFA)は、JFA2005宣言を受け、北海道のサッカー界のあり方や進むべき方向などを明確にするため、「HKFAの理念」「HKFAのビジョン」「HKFAの約束2015」「HKFAの約束2050」を、2005年4月に制定した。HKFA2015プロジェクト事業本部は、この「HKFAの理念」「HKFAのビジョン」に基づき、北海道の人々に約束した「HKFAの約束2015」を具現するため創設された。その後、10年間を経過し、「HKFA2015プロジェクト」の取組みの総括(成果と課題)を行い、新たに「HKFA2025プロジェクト」として8内容のミッションを整理したが、2018年、新たに「障がい者サッカーの振興・充実のセクション」とともに、プロジェクトの確実な進捗を図る「進捗分析・管理セクション」を設けた。

HKFA2025プロジェクトの業務など

HKFA2025プロジェクトは、10内容の発展等に向けて、明確な定量的目標か定性的目標に基づいて行います。

(1) HKFA2025プロジェクトの業務内容



(2) HKFA2025プロジェクトの目標管理

10年間のHKFA2015PJの推進を踏まえた2025プロジェクトは、道民への約束を履行するための組織です。したがって、その推進は、確実にかつ明確に、停滞なく行うことが求められます。進捗に係る目標は、2025年度まで、短期目標年度、中期目標年度、長期目標年度の3期に分け、プロジェクトを推進することにした。

2016年度から2025年度までの3期の目標区分は、以下の通り

- ・短期目標年度: 2016～2019年度【目標の1/4～1/2以上の遂行】
- ・中期目標年度: 2020～2022年度【目標の1/2～2/3以上の遂行】
- ・長期目標年度: 2023～2025年度【全ての2025プロジェクトが達成】

※1 制定 2016年 4月

※2 一部改正 2018年10月

公益財団法人北海道サッカー協会 2025プロジェクト

2016年4月 制定

2018年10月 一部改定

I HKFAの理念及びビジョンの具現に向けて

公益財団法人北海道サッカー協会会長 鈴木重男

HKFAの理念

サッカーを通じ、道民の心身の健全な発達と北海道スポーツの振興に貢献し、豊かなスポーツ文化を醸成する。

公益財団法人北海道サッカー協会は、サッカーを通して、本道命名期のフロンティアスピリット（開拓者魂）を我が愛する郷土北海道全体に浸透させ、道民が元気に大きな夢を持って毎日を生活できるよう、また生涯にわたって地域の中で充実したスポーツライフを楽しむことができる環境が整うことを願っております。

HKFAのビジョン

1. 北海道のサッカー普及に努め、老若男女がサッカーを楽しみ、ファミリー全体が幸せになれる環境を創り上げるため、サッカーファミリーの拡大を図る。
2. 道民チームJリーグ「北海道コンサドーレ札幌」とFリーグ「エスポラーダ北海道」を頂点として、北海道を代表する各チーム・選手が常に日本のトップレベルで活躍できるよう、サッカーの強化に努め、道民に希望と勇気と感動を与える。
3. サッカーを通してフェアプレー・リスペクトの精神を身に付け、全道に相互扶助の豊かな気持ちが広がるよう貢献する。

公益財団法人北海道サッカー協会は、組織を充実し、サッカーファミリーを拡大し、幼児からシニアにいたるまでの心身の発達状況等に応じたルールを工夫などして、誰もが、どこでも、手軽にサッカーを楽しむことができる環境を整えます。また、幼児期からの発達特性に留意したプログラムを策定するなどして、それに引き続くトレセンを充実し、サッカーの技を磨くとともに、逞しい体とスポーツマンシップに基づく自己を愛するように他人をも大事にする思いやりの心を育てます。さらに、過疎化や高齢化が進んでも、その地に明るさをもたらすような、相互扶助の気持ちが北海道全体に広がるよう、私たち公益財団法人北海道サッカー協会は2025プロジェクトを推進してまいります。

II HKFA2025プロジェクトの推進

1 HKFA2015プロジェクトから2025プロジェクトへ

公益財団法人北海道サッカー協会は、JFA2005宣言を受け、北海道としてのサッカー界の在り方や進むべき方向などを明確にするため、「HKFAの理念」「HKFAのビジョン」「HKFAの約束 2015」「HKFAの約束 2050」を、2005年4月に制定しました。

HKFA2015プロジェクト事業本部は、この「HKFAの理念」、「HKFAのビジョン」に基づき、道民の皆様方にお約束した「HKFAの約束2015」を具現するため創設しました。その10年間を経て「HKFA20

15プロジェクト」の総括をまとめました。

公益財団法人北海道サッカー協会は、2015プロジェクトとしての全体総括や部門別の成果と課題を踏まえて、さらに、以下にあげる9内容のミッションについて進化を図るため、2025プロジェクト事業本部を立ち上げその実現に向けて推進してまいります。

2 HKFA2025プロジェクトの業務等

HKFA2025プロジェクトは、「HKFAの約束2015」のさらなる進化を目的に、各セクション担当者の目標管理の下、アウトカム指標などを明確にしながら推進致します。

(1)HKFA2025プロジェクトの業務内容

HKFA2025プロジェクトには、「HKFAの約束2015」の具現を図るため、次の内容がミッションとして与えられています。

- ①「サッカーファミリー35万人」に係るミッション
- ②「北海道コンサドーレ札幌J1定着」に係るミッション
- ③「エスポラーダ北海道上位定着」に係るミッション
- ④「代表選手輩出」に係るミッション
- ⑤「全国上位進出」に係るミッション
- ⑥「なでしこリーグ加盟育成」に係るミッション
- ⑦「JFL加盟育成」に係るミッション
- ⑧「スポーツ医学」に係るミッション
- ⑨「障がい者サッカー・フットサル」に係るミッション

(2)HKFA2025プロジェクトの目標管理

HKFA2025プロジェクトは、道民の皆様方への約束を履行するための組織です。したがって、その推進は、確実にかつ明確に、遅滞無く推進することが求められます。

このことから、2016年度から本格実施するため、2025年度までの10年間を短期目標年度、中期目標年度、長期目標年度の3期に分け、プロジェクトを推進することにしました。この3期の推進状況が明確になるよう、定量的目標^{※2}か定性的目標^{※3}のどちらかにより、目標を設定するなどしてプロジェクトの進行度合が、より一層、明確化するよう、2018年10月、「進捗分析担当」を新設するなどして、各担当者の目標管理を確実に行うよう配意します。

なお、2016年度から2025年度までの3期の区分は、次のようにします。

短期目標年度：	2016年度～2018年度	【目標の1/4～1/2以上の遂行】
中期目標年度：	2019年度～2022年度	【目標の1/2～2/3以上の遂行】
長期目標年度：	2023年度～2025年度	【全ての2025プロジェクトが完成】

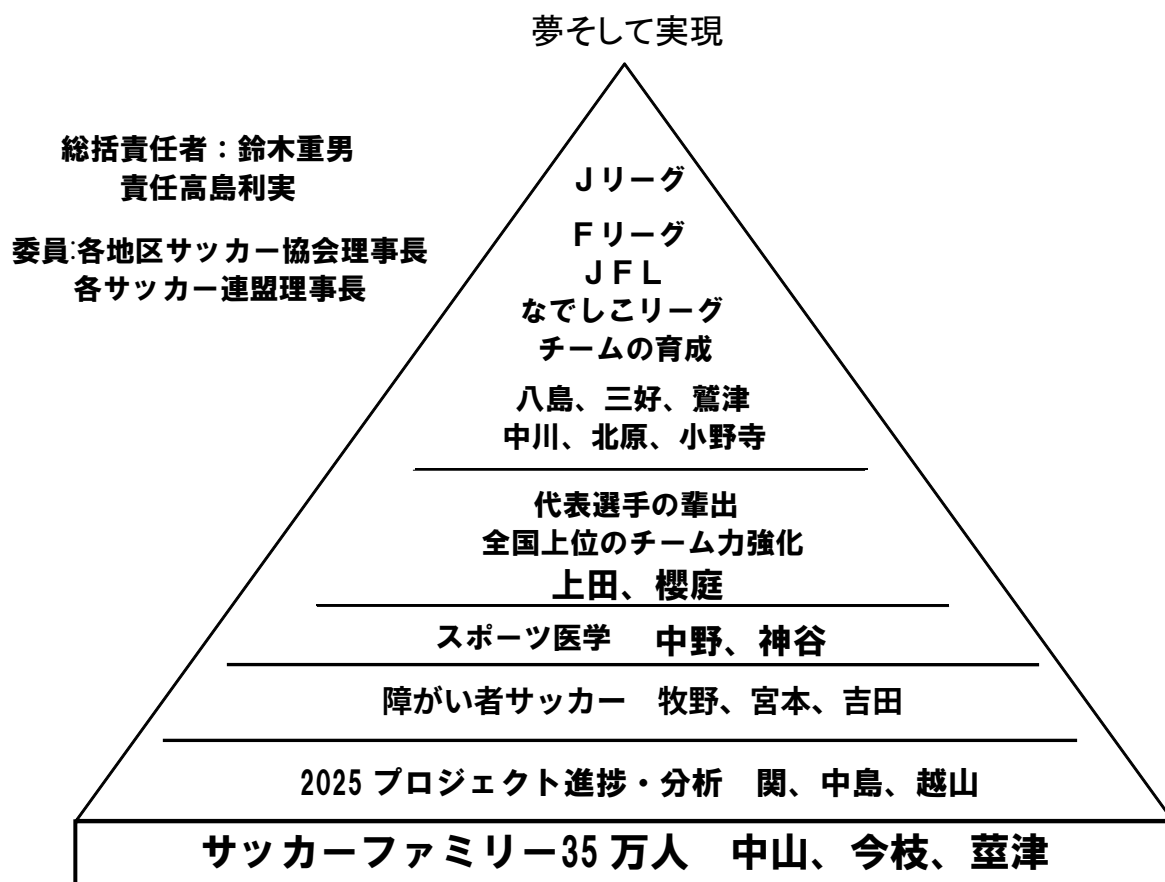
3 HKFA2025プロジェクトの構成等

本プロジェクトの実現に向けての役割を担うメンバーは、

○ 責任者	鈴木重男、高島利実
○ サッカーファミリー35万人部門	中山明彦、今枝映人、荃津都
○ 北海道コンサドーレ札幌J1定着部門	北原次郎
○ エスポラーダ北海道上位定着部門	小野寺隆彦
○ 代表選手輩出部門	上田充士
○ 全国上位進出部門	櫻庭慎二郎
○ なでしこリーグ加盟育成部門	鷺津裕美、中川綾子
○ JFL加盟育成部門	八島隆志、三好健寿
○ スポーツ医学部門	中野和彦、神谷智昭
○ 障がい者サッカー・フットサル部門	牧野克明、宮本勇太、吉田順省
○ 進捗分析部門	関 朋昭、中島寿宏、越山賢一

(2018年10月現在)

このHKFA2025プロジェクトの内容構成は、次のように階層的構造として、整理し、相互の関連化を図りながら全体的調整を行う中で、プロジェクトを推進します。



4 HKFA2025プロジェクト推進に係る留意事項

HKFA2025プロジェクトは、その推進に当たり、本道サッカーを取り巻く環境の変化も想定し、その変化等に柔軟且つ円滑に、各担当者及び担当間で対応できるようにするため、次の3点に留意して進めます。

- 原則1： 歩きながら、振り返り、問いかけつつ、着実に推進すること**
PDCAサイクルを積み重ね、「歩きながら、振り返り、問いかけつつ、着実に推進する」マネジメントを採用します。
- 原則2： 各地区協会及び各連盟・チーム等から好意を持って迎えらるること**
全道的視野の下、各地区サッカー協会及び各連盟・チーム等から好意的に理解・支援される内容・方向でプロジェクトを推進します。
- 原則3： 各協会及び各連盟理事長が本プロジェクト事業本部推進委員になること**
各地区サッカー協会理事長及び各サッカー連盟理事長が委員となって、事業本部と一体の中で、目標を到達します。

- ※1 目標管理：担当者自ら設定した目標を自己統制により管理する。
- ※2 定量的目標：目標の達成度を客観的に判定するために、定量化（数値化）して設定する。定量的目標では、パーセント、実数、計算の根拠（計算式）を明らかにし、比較対象となる判断基準を示すようにする。
- ※3 定性的目標：目標の達成度を客観的に判定するため、達成レベルが分かるような状態や条件（期限、目標が達成された状態のイメージなど）を明らかにし、「～の状態になる、なっている」「～の行動をする、完了する」というような表現について工夫する。